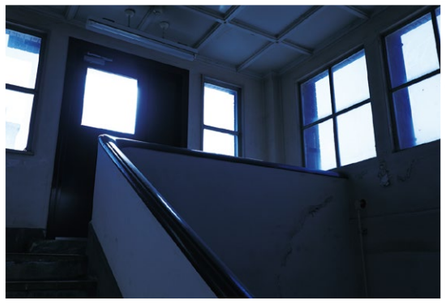

農学部1号館の改修工事にあたり

私のように1号館で育った人間の多くがこの建物に誇りを感じているのは、なにより1号館が東大有数の堅牢な建築物であるためだろう。4年生となって研究室に入り、最初に聞かされた話の1つは、“関東大震災の直後に建てられた1号館は、当時の耐震設計の粋を集めて出来た建造物である”ということだった。工学部にいた友人も、研究室に遊びに来るたびに、1号館の柱の幅が1メートル近くもあることを感嘆していたものである。“揺れに対しては学内で最強の建造物の1つだろう”という彼の判定は、30年後の東日本大震災で実体験することとなった。あれだけの揺れでも、研究室では棚から物1つ落ちなかったのである。そのため、1号館の耐震改修の話が出るたびに、“なんとも有り難迷惑な話だ”と思ってきた。

その彼が、昨年、久しぶりに研究室に遊びに来た。彼は、東日本大震災で出来た壁のひび割れを見て言った。“これはまずい。ひび割れから湿気がコンクリに入ると、コンクリがぼろぼろになっていく。そうしたら、地震が来たらひとたまりも無い・・・”。彼のこの一言を聞いて以来、今回の改修工事がまことに有り難く感じられるようになった。

もちろん、古い建物ゆえの問題もないわけではなかった。その1つは、バリアフリー化が難しかったことである。バリアフリー化で思い出されるのは、田無農場の准教授だった故・佐々木治人さんのことである。佐々木さんも1号館で育った人間の一人であるが、平成18年より准教授として農場に勤務していた。その佐々木さんが骨盤の癌を患って車椅子の生活となり、自宅に近い弥生へと勤務地が変更となった。佐々木さんを1号館に迎えるにあたり、私たちは全学のバリアフリー室に幾度も働きかけたのだが、ついぞ車椅子が使えるスロープの設置は実現しなかった。そのため、佐々木さんは玄関の階段を松葉杖で昇降する生活を余儀なくされたが、惜しくも平成25年9月に鬼籍に入られた。今回の改修でようやく1号館もバリアフリー化できることを、天国の佐々木さんも喜んでくれているに違いない。

生産・環境生物学専攻
根本 圭介 教授

農学部1号館は、内田祥三による関東大震災後の本郷キャンパス復興計画に従って設計された。大正15年8月に着工し、昭和5年2月に竣工すると、現在に至るまで長年教育・研究の場として利用されてきた。昭和20年3月には空襲により、現在の農学部グラウンドにあった木造建物を焼失してしまったが、農学部1号館は戦災を免れた。その後昭和36年2月には増築され、昭和44年1月には農共闘系学生が農学部１号館を封鎖するなど、歴史的事件の舞台にもなった。竣工後農学部の様々な苦難とともに長年利用されてきたが、令和2年4月から、耐震補強や長年利用されてきた内装を修繕するため、大規模改修工事の実施を予定している。工事は２期に分けて実施され、１期では西側、その後の２期工事により東側の改修が行われる。改修後はエレベーターなども設置され、バリアフリーも意識された空間となる。
（東大農学部の歴史（https://www.a.u-tokyo.ac.jp/history/index.html）より一部抜粋）

弥生 Yayoi
70 Spring 2020
東京大学大学院
農学生命科学研究科・農学部
Web サイト
www.a.u-tokyo.ac.jp

編集後記

昨年4月より広報委員を拝命してから一年、まだまだ駆け出しの身ではございますが、畏れ多くも「弥生」70号の編集後記を担当させて頂くことになりました。さて、本号のテーマは「殖える」ということで、私たちの食や健康、環境と関わりの深い微生物や細胞の「殖える」に焦点を当てた、農学ならではの話題を紹介させて頂きました。今一度、農学が対象とする分野の多様さや奥深さを感じて頂けたら幸いです。

また、本号でも特集いたしました通り、永らく農学部の歴史と伝統を支えてきた1号館の改修がいよいよ始まります。現在、広報室では、農学を志す人材のさらなる育成に貢献すべく、これまでの活動に加え、若い世代に農学の面白さや大切さを伝えるための新しい企画の立ち上げに取り組んでいます。改修後の1号館がお目見えする頃には、その試みが実を結び、農学部の教育や研究の発展に資する財産が「殖える」よう精進したいと思います。

広報室員　藤本 優

発行日 令和2年3月31日　企画編集：東京大学 大学院農学生命科学研究科広報室（髙橋伸一郎・藤本 優・永田宏次・福田良一・関澤信一・飯田俊彰・宮沢佳恵・増田 元・服部 斎・村上淳一・伊與泉文彰）
〒113-8657　東京都文京区弥生1-1-1　TEL:03-5841-8179　FAX:03-5841-5028　E-mail:koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp
デザイン：梅田敏典デザイン事務所　表紙撮影：中島剛　撮影場所：附属生態調和農学機構　取材編集：米谷紳之介・佐藤行弘